

## 數種ノ數珠ト其原植物ニ就テ

照 屋 全 昌

Zensyo TERUYA: On several Kinds of Rosaries used among Buddhist and their original Plants.

## ハシガキ

從來我國ノ佛教徒間ニ使用サレテ居ル數珠ハ普通じゅうずぼだいじゅうノ實(即金剛子)トシテ知ラレテ居ルモノ、ミニ限ラレテ居ルカノ如クニ考ヘテ居ク筆者ハ、數年前友人松崎直枝君<sup>6)</sup>ガ、盆栽誌上ニ天保九年京都ノ本草家山本亡羊氏ノ著書百品考ニ載セタ金剛子ノ記事ヲ引例セラレタノヲ見テ、當時既ニ此品ガ舶載サレテ居リ、シカモ其内大小種々アルコトヲ知ツタ次第デアルガ、更ニ昨年7月初旬昭南島本願寺出張所ノ清水師ヨリ、吾々仲間ニテ菩提樹ト稱スルモノニ前記金剛子ノ外、現ニ自分ノ所持スルモノ丈デモ次ノ3種アリトテソノ實物ヲ見セテ戴イテ、愈々自分等ノ此方面ニ對スル知見ノ餘リニモ貧弱ナリシコトヲ恥ヅルト共ニ、茲ニソノ品々ノ模様ヲ報告シテ未知ノ方々ヘ御傳ヘシ、併セテ夫等ノ品々ニ就テ知解セラル、高教ノ士ノ御垂教ヲ仰ギ度ク、又他面ニハ主トシテ等3種ノ供給地ニナツテ居リ、又其產地デナイカト思ハレル支那大陸ニ居住セラレル同好ノ士ノ調査研究ノ機縁トモナラバ幸甚ト思ヒ、本文ヲ草スル次第デアル。茲ニ云フ3種ノ菩提珠トハ鳳眼菩提珠、龍眼菩提珠、及星月菩提珠之レデアル。以下先ヅ既知ノ金剛子及其近似品ト其原樹ニ就キテ概略ヲ述べ、續イテ右ノ3種及他ノ材料ニヨル數珠ニ就テ概見ヲ記シテ見ヨウ。

## 1. 金剛子(一名金剛珠)、花金剛珠及ひだなしぼだいじゅう

今日一般ニじゅうずぼだいじゅうノ實トシテ知ラレテ居ルモノハ、古來我國ノ本草學者ノ間ニハ金剛子一名金剛珠ノ名ヲ以テ知ラレ、ソノ種核ヲ用ヒテ出來タ數珠ハ所謂金剛菩提珠デアル。ソノ原樹ハ既ニ我國ニモヨク知ラレテ居ル様ニ、我ほるとのき及こばんもち等ト同屬ノ *Elaeocarpus ganitrus* ROXB. (第1圖)デアツテ、印度ノ各地特ニネパール、アッサム、チッタゴン等ニ多ク産シ、其他瓜哇ニ分布シテ居ルガ、馬來半島ニハ今日迄ペラ、マラッカ及ピナン等カラ

採集サレ、特ニピナ  
ン島デハ海拔 1000  
ft.ノ高地ニモ産スル  
コトガ解ツテ居ル  
ガ、リドレー氏<sup>4)</sup>ハ  
馬來ニ於ケル野生ヲ  
疑問視シテ居ル。

樹高 40-60 ft. ヨ  
ク枝ヲ張ツテ密ナル  
樹冠ヲ形成シ、樹皮  
ハ褐色デ平滑、葉ハ  
互生、披針形ニシテ  
兩端尖リ、縁邊ハ淺  
鋸齒ガアリ、葉脈ハ  
細イガ判然トシテ側  
脈數 10-12 對、葉長  
9-15 cm 幅 2.5-5.5  
cm、葉柄ノ長サ 6-  
13 mm、成葉及小枝  
ハ共ニ平滑デア  
ルガ、幼芽ハ多少微毛  
ガアル。花ハ通常枝  
ノ無葉ノ部分カラ抽  
出スル總狀花序上ニ  
開キ、花序ハ葉ヨリ  
モ短ク 9 cm 位、有  
毛ニシテ花ハ多數、  
白色ニシテ展開シ、  
直徑 13 mm 内外、  
花被ハ 5 ノ數ヨリ成  
リ、小花梗ハ長サ 10  
mm 位、萼ハ披針形  
ニシテ鋭尖、有毛、



第 1 圖 じゅずぼだいじゅ。1. 花枝 2. 花(擴大) 3. 雄  
蕊 4. 子房及花托 5. 子房横斷面 6. 同縱斷面 7. 成  
熟果實 8. 果實横斷面 9. 種核 10. 種子 11. 種子縱  
斷面 (ワイト氏ニヨル)。

Fig. 1. Indian- or Utrasan bead tree.  
(*Elaeocarpus ganitrus* Roxb.)

1, flowering branch. 2, a flower (enlarged). 3, a  
stamen. 4, ovary and torus. 5, transverse section of  
ovary. 6, vertical section of the same. 7, a ripe fruit.  
8, transverse section of fruit. 9, a stone. 10, a seed.  
11, vertical section of the same.

(All after WIGHT)

花瓣ハ倒卵形ニシテ萼ヨリモ稍長ク、其先端ハ此屬ノ特徴(こぼんもちハ例外)トシテ殆ソノ中央近ク迄細裂シテ刷毛狀ヲナシ、花托ハ短イガ肥厚シテ肉質ヲナシ、雄蕊數 30-35 本、ソノ長イモノ、先端ニハ 1-2 本ノ細毛ガ附着シテ居ル。蒴ハ先端デ裂開スル。子房ハ卵形有毛、5 室ニ分レ、各室 4 個ノ胚珠ヲ有シテ居ル。果實ハ球形ヲナシ外面平滑、初メ綠色デ熟スレバ瑠璃色ヲ呈シ、乾燥シテモ永ク褪色シナイ。直徑 20-25 mm 位ノ核果デ核ハ堅ク殆ソノ骨質ニ近イ。通常 5 室デアアルガ又 6 室稀ニハ 7 或ハ 3 室ノモノモアル。外面ハ周知ノ如ク頗ル不規則ナ顆粒狀ノ凹凸面ヲナシ、果實ト等シク殆ソノ球形ニ近イガ多少 5 稜形ヲナス傾向ガアリ、且各室ノ縫合線ハ規則正シキ 5 條(其他室數ト同數ノ)ノ淺キ凹線ヲナシテ縦走シテ居ル。種核ノ直徑ハ大ナルハ 20 mm 内外、中小形ノモノハ夫々 15 mm — 10 mm 以下ノモノ迄種々アルコト次表ニヨリテモ窺ヒ得ル所デアアル。之ニヨリテ彼ノ山本氏ノ大ザ龍眼大ノモノ、無患子大ノモノ及桐子大ノモノト記スモノガ略ソノ大果、中果、小果ノ種核ニ相當スルモノト察セラレル。普通市販ノ品ハ寧ロ中、小形ノモノガ多ク、次表ニ示ス 2 例ハ當地デ入手シタ小形品中ノ大小ヲ示スモノデアアル(註、直徑 15 mm 以上ヲ大トシ、11-15 mm ヲ中、10 mm 及 10 mm 以下ヲ小形トシテ)。

數珠ヲ瓜繰ル宗教上ノ意義ニ就テハ筆者不肖ニシテ之ヲ語ルコトガ出來ナイガ、シカシ宗教上ニ數珠ヲ使用スルコトハ單ニ佛教文デナク、基督教特ニカトリック教ニ於テ行ハレテ居リ、數珠禱業ノ儀式ノアルコトガ示サレテ居リ、其他印度デハ波羅門教徒及印度教徒ノ間ニモ行ハレテ居ル。又ソノ一連ノ數珠ノ數ニ就テハ基督教ニ於テハ知ル所ガナイガ、佛教デハ百〇八ノ煩惱ヲ拂ヒ除ケルト云フ意味ヨリ 108 箇ヲ以テ正式トシ、ソノ半數乃至  $\frac{1}{4}$  或ハ 18 箇ヲ以テ略式トシテ居ル様デアアルガ、印度教徒ノ間デハ 101 箇ヲ以テ一連トシ 101 箇ノシバ神ノ眼<sup>5)</sup>ヲ意味スルモノト云ハレテ居ル。又筆者ノ知ツテルーアラビヤ人ノ談ニヨレバ回教徒間ニモ亦數珠ガ用ヒラレ、アラ神ヘノ禮拜ノ直後片手ニ數珠ヲ握リ乍ラ數ヲ數ヘ 100 ニ至リテ止メルト云フ、從ツテ一連ノ珠ノ數モ 100 箇ヲ以テ正式トスル。

次ニ松崎氏<sup>6)</sup>ガ盆栽誌上ニ引用セル山本氏ノ百品考ニ載スル所ノ金剛子ノ記事ヲ更ニ引用シテ參考ニ資ス。

「金剛子 和名こんがうじ。」

典籍便覽 金剛子出ニ安南海南ニ、六楞遍身花  
紋深可愛、堅而實、故名、作數珠、

普通金剛子及花金剛子測定表。(單位 mm)

No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	平均 價	標準 偏差	
普通 金剛子	小形 (大)	高サ	10	9.5	10	11	10	10	9.5	10	9	9.5	10	10	10	9.5	10.5	9.5	10	9.5	9.5	10	9.85	±0.33
		直徑	10	9.5	10	9.5	10	10	10	10	9.5	10	10	9.5	10	9.5	9.5	9.5	10	9.5	9	10	9.75	±0.28
	小形 (小)	高サ	8	8	7.5	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8.5	8	8	8	7.5	8	8	7.98	±0.09
		直徑	8.5	8	8	8	8	8.5	8.5	8	8	8	8	8	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8	8	8.5	8.23	±0.25
花 金 剛 子	大 形	高サ	10.5	10	9	8	9	8	9	8	9.5	9	9	10.5	10	9	9	9	10	9.5	10	9	9.25	±0.60
		直徑	10	7	8	8	8.5	8	8	8	8	8	8	8.5	8	8	8	8.5	8	9	8	9	8.23	±0.42
	小 形	高サ	6.5	8	7	8	8	7.5	7	8	6	8	9	6.5	9	9	8.5	6	8	8.5	8	7	7.68	±0.79
		直徑	6	6	6	6	6.5	6	6.5	6.5	6	6	8	6	6.5	7	6	6	6.5	6	6	6	6.28	±0.36
備 考	大形 例 1. 高 17 mm、直徑 19 mm. 例 2. 高 17 mm、直徑 16 mm. ひだなしぼだいじゅ 例 1. 高 20 mm、直徑 20 mm. 例 2. 高 18.5 mm、直徑 18.5 mm.																							

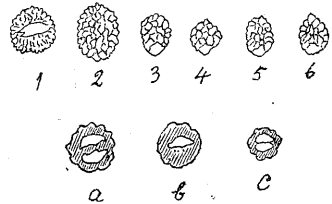
冬月不冷、有ニ龍眼大者一、有ニ榛子  
大者一、有ニ桐子大者一

物理小識 金剛木結實可レ爲ニ念珠一、其小者貴

舶來多シ。用テ念珠トス。俗ニ金剛珠ト云フ。形朝鮮胡桃ノ外殻ヲ取りタル如シ。花紋アリ或ハ深ク或ハ淺ク彫刻スルガ如シ。圓クシテ少シ稜アリテ六角ナルガ如シ。黃褐色ニシテ至ツテ堅シ。打割リ難シ。大サ無患子ノ如シ。一種小ニシテ梧桐子ノ如キヲ花金剛珠ト云フ。又大サ龍眼ノ如キモノアリ。外面ヲ磨キオロシテ滑ラカナラシメ花紋ナク光アリテ 褐光細文アルヲ天竺菩提珠ト云フ。念珠ノ上品トス」

上記ノ中「圓クシテ少シ稜アリテ」ハ球形ニシテ少シ稜アリテノ意味ニ解ス可ク、其次ノ「六角ナルガ如シ」ハ觀察ノ不正確ニヨルモノデ、前記果實ノ記載中ニモ記ス如ク種核ハ5室ヲ以テ正常形トシ、各室ノ縫合線ニ沿フ兩側ハ稍肥厚シテ高マルカラ即稍5稜形ヲナスモノデアル。其他ハ大過ナイ様デアル。上記ニヨリソノ大サハ略無患子大ノモノガ普通ノ様デアル、即現代式ニ云ヘバ數珠菩提珠ノ中形ノ品ニ相當スルモノト察セラレル。

次ニ上文中ニ記ス花金剛珠ノ正體デアルガ、上文ニヨルト梧桐子ノ如キモノトナツテ居ル丈デハ判斷ニ苦シムケレドモ、梧桐子ノ大サハ白澤博士ニ從ヘバ其直徑約9mm内外デアルカラ、大體ニ於テ現今當地方デ小形ノぼだいじョノ實トシテ販賣サレテ居ルモノニ相當スルノデナイカト察セラレル。勿論筆者ハ未ダ日本内地デ花金剛珠ト呼バル、モノヲ實見スル機會ニ惠マレナイカラ夫ト斷定スルコトハ出來ナイガ當地方ニ於ケル小形品ハ主トシテ ビルマノランゲン 或ハ 印度ノカルカッタ カラ輸入サレテ居ルモノデアルガ、ソノ大サニハ通常大小2種アリテ大ナルハ直徑7-10mm 小ナルハ6-7mm 程度デアル。本品ハソノ種核ノ形態及構造共ニ前掲ノ數珠菩



第2圖 花金剛珠(原圖)。

1-6 種々ナル形狀ヲ示ス

a-c 横斷面ヲ示ス

1-2 及 a-b ハ大形其他ハ小形

1. 球形ノモノ(基部ヨリ見テ無紋ノ部分ヲ示ス) 2及5 橢圓形 3. 倒卵形 4. 兩端尖ル 6. 卵形

Fig. 2. Various shape and transverse sections of "Hanakongo-ju" (small sized Indian bead) (*Elaeocarpus petiolatus*

WALL.?).  $\times \frac{2}{3}$  (original).

1-6, different shapes of stone. a-c, transverse section of the same. 1-2 & a-b, Large type, the others small type. 1, round form. 2 & 5, elliptic form. 3, obovate form. 4, pointed both ends. 6, oval form.

提珠トハ異リ、形狀ハ球形ノモノモアルガ、稍橢圓形乃至卵形ノモノガ多ク、或ハ殆ンド長橢圓形ニ近イモノ又ハ倒卵形ノモノ等ガアルノト、往々ニシテ上下兩端ニ突出スルコトガアリ(第2圖1-6)、且ソノ外面ノ所謂花紋ナルモノハ淺クシテじゅずぼだいじゅノ如ク粒狀ヲナサズ、其基部ニ當ル小部分ハ殆ンド平滑デアアル。又前者ノ如ク5稜形ヲナスコトナク、斷面ハ圓形ニ近ク、之ヲ切斷シテ檢スルト10個ノ内7個迄2室デ(第2圖a及c)他ノ3個ハ1室デアアルガ、而モ退化シタ室ノ痕跡ヲ止メテ居ルヲ見ルト(第2圖b)2室ガ正常ノ狀態デアアラシイ。又じゅずぼだいじゅノ實ノ縫合線ガ明ラカニ5條ノ淺キ縦線トナツテ認メ得ラレルニ反シ、茲ニ云フ花金剛珠デハ之ヲ認メルコトガ出来ナイ。ソノ代リ其基部ノ部分ニ紡錘形ノ線ニヨツテ種核ノ全周ノ $\frac{1}{3}$ 邊迄不明瞭ナ線ヲ劃スルモノガアル。之ハ元來3心皮ノ内中央ノ1枚ガ發育不完全ニ終リ其儘痕ヲ殘スモノカ、或ハ2枚ノ心皮ガ基部ニ於テ接合シテ子房ヲ包シト解ス可キカ何レカデアロウ。種核ヲ剖檢シタ結果カラ見ルト恐ラク後者デナйкаト察セラレル。ソノ原植物ニ就テハ未ダ多少ノ疑問ガアルケレドモ、フッカー<sup>1)</sup>、ブランドス<sup>3)</sup>及リドレー<sup>4)</sup>氏等ノ記載、果實ノ形及種核等カラ推斷シテ *Elaeocarpus petiolatus* WALL.ニ該當スル様ニ思ハレル。只難點ハ上記フッカー及リドレーノ二氏共ニ種核ハ1室ト明記シテ居テ、實物ト合致シナイ點デアアル。然シ其子房ハ常ニ2室デアアルカラ常ニ種核ノ2室ニ發育スル個體モアリ得ルコトハ想像出來ルノデアリ、現ニじゅずぼだいじゅノ種核ハ常ニ5室ト記載サレ乍ラモ實際ニハ6-7室又ハ



第3圖 ひだなしぼだいじゅ(1-7  
リドレー氏ニヨル、8-9 原圖)。

1. 花枝 2. 花側面 3. 同上展開セルモノ 4. 花瓣 5. 子房 6. 托葉 7. 果實 8. 最も普通ナル葉形 9. 種核(明ラカニ5室ナルヲ示ス)

Fig. 3. *Elaeocarpus stipularis* BL.  
1, Flowering branch. 2-3, side and over view of flower. 4, a petal. 5, ovary. 6, stipule. 7, ripe fruits. 8, popular form of a leaf. 9, clearly five celled stone.

(1-7 after RIDLEY, 8-9 original).

稀ニ 3 室ノモノモ發見シ得ル通りデ何處迄モ記載ノミニタヨルコトモ考ヘ物ト思ツテ居ル。兎ニ角決定ニハ更ニ精査ヲ要スルトシテモ略上記ノ種ニ頗ル近縁種デアルト云フコトハ出來ルト思フ。尙本種ニ就テハ決定後ニ更メテ報告スルコトニシテ今回ハコノ程度ニ止メテオク。

註。普通金剛子ノ小形ノモノト、花金剛珠ノ大形ノモノトハ上掲ノ測定表ニモ明ラカナル通り、殆ンド同大デ寧ロソノ高サハ花金剛珠デハ橢圓形乃至卵形等長ミヲ帯ビタモノアルタメニ普通金剛珠ノ小形ヲシノグモノガアルガ、詳細ニ見ルト普通金剛珠ノ小形品ハ只形ガ小サイ丈デ顆粒、紋理ガ深く且常ニ 5-6 室ナルニ反シ、花金剛珠デハ紋理淺ク且常ニ基部ノ小部分ニ無紋ノ部分ヲ伴ヒ、種核ノ室數ハ不明瞭ナル爲メ明ラカニ區別サレレ。

尙種核ノ數珠ニ適スルモノニ筆者ガひだなしぼだいじゅ (*Elaeocarpus stipularis* BL.) (第 3 圖) ト稱ヘテ居ルモノガアル。本種ハ馬來半島ノ平地林ニ最モ普通ノ種類デアツテ、高サ 12-20 m ノ中喬木トナリ、成葉ハ稍卵形ヲナシテ多少有毛、幼芽上ニハ絹光ヲ有スル細毛ガ密布シテ居ル。葉長 9-16 cm 巾 4.5-6 cm 葉柄 13-19 mm 内外、托葉ハ頗ル著シク 3-6 出ノ掌狀デ長サ 5 mm 内外デアル。花序ハ總狀ヲナシ、葉ノ下カラ抽出シテ長サ 12-14 mm 内外、有毛。花ハ白色、直徑 7-8 mm、小花梗モ略同長、萼ハ内外面共ニ有毛、披針形デ花瓣ハ楔形、先端ハ通常 4 裂シテ各片ハ更ニ絲狀ニ細裂シテ居ル。雄蕊數約 25 本、花瓣ノ長サノ約半バニ達シ、藥ハ不等形ヲナシ、ソノ長イ方ニハ白毛ガ叢狀ヲナシテ附着シテ居ル。花托ニハ 5 箇ノ蜜腺ヲ備ヘテ居ル。子房ハ卵形デ有毛、通常 5 室 (變種ニハ 3 室ノモノガアル)、果實ハ球形、稀ニ稍橢圓形ヲナシ、高サ 20-25 mm、種核ハ通常 5 室ヲナシ、大ハ直徑 20 mm ニ達スルガ個體ニヨリ可ナリ變化ガ多イ (註、本種モフッカー及リドレー氏共ニ種核 1 室ト記スガ 5 室ノモノガ普通ニ多イ)。其表面ハヒダナシト呼バル、名稱ノ如ク彼ノじゅずぼだいじゅノ如キ顆粒狀ノ紋理ナク殆ンド平滑ニ近ク僅カニ認メ得ル程度ノ不規則ナ凹線又ハ點狀ノ模様ヲ見ルノミデアル。此果肉ハ又一種ノ小形蝙蝠ノ大好物デ夜間ニナルト絶エズ之ニヨリテ遠方ヘ運バレテ撒布サレ、往々舍宅ノベランダノ天井迄持來タシ、之ヲ食シ其種核ヲ落下セシメルコト多ク、ソノ場處ハ常ニ一定シテ果肉ヲ嚙ムト共ニソノ澁汁ヲモ落下セシメテベランダヲ不潔ナラシメ、往々之ヲ追拂フニ苦心スルコト一通リデナイコトヲ經驗スル。此種核ハ多量ニ採集販賣サレナイノ一般ニハ知ラレテ居ナイガ、筆者ハ之ヲ清水氏ニ示シタルニ之ハ數珠トスルニヨロシク、又手觸リモじゅずぼだいじゅ以上ニ良好ナルト賞讃ノ辭ヲ呈セラレ

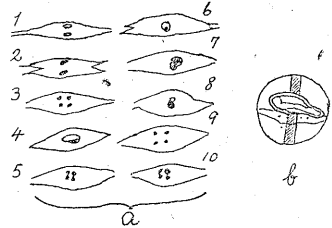
夕處ヲ以テスレバ將來或ハ實用ニ供セラレル時機ガ來ルカモ知レスト思ヒ之ヲ附記スルモノデアアル。

## 2. 鳳眼菩提珠

直径 15 mm 内外ノ球圓形デ、淡黃褐色、骨質デ堅ク、面ハ磨キオロシテアルガ餘リ厚ク削リ取ラレテ居ナイコトハ殆ンド各箇ニ點狀乃至不規則ナル線狀トナリテ凹處ノ殘レルコトニヨツテ察知シ得可ク、新鮮ナル間ハ淡黃褐色ナルモ使用スルニツレテ濃色トナリ、數年ヲ經過シタモノハ暗褐色ノ光澤ヲ放ツニ至ル。之ヲ鳳眼ト名付クル理由ハ其各珠共例外ナクソノ一側ニ當リ第 4 圖 a ニ示ス如ク全周ノ約  $\frac{1}{3}$  ノ長サニ達スル判然タル紡錘形ノ紋ノ存スルニヨルモノデ、之ガ即チ“鳳凰ノ眼ニ似ル”ト云フ意味ヨリ稱ヘラレタルモノナリト云フ。

此紋理ハ明ラカニ果實ノ基部ニ相當スル部位デ、其形狀ハ箇體ニヨツテ多少變化ガアリ、任意ノ 10 箇ヲ測定シテ最短 16 mm、最長 23 mm、平均 19.7 mm、又中央ノ最大幅員ハ同ジク 15 箇ノ測定デ最小 5 mm、最大 6 mm、平均 5.28 mm ヲ得タ。此中央部ニハ目ノ心ニ相當スル部分ガアル。之ハ果柄ヘ連絡スル維管束ノ跡デ、何レモ淺キ凹點ヲ以テ現レ、ソノ狀況ハ第 4 圖 a (1-10) ニ示ス如ク、完全ニ分離セル 4 點 (同圖 3 及 9) ヲナスモノモアルガ、大部分ノモノハ左右ノ 2 點ガ連絡 (同圖 1 及 2) スルモノ、或ハ上下ノ 2 點ガ連絡 (同圖 5 及 10) スルモノ、或ハ全部ガ合シテ不規則ナル凹點 (同圖 4, 6, 7 及 8) ヲナスモノ等デアアル。

コノ所謂眼ノ部分ハ前項花金剛珠ノ場合ト等シク 3 枚ノ心皮ノ内兩側ノ 2 枚ガ果實ト共ニ發育シテ全果ヲ包ミ中央ノ 1 枚ガ退化シテ此狀態ヲナスモノカ、或ハ 2 枚ノ心皮ガ基部ニ於テ接合シテ相反スル方向ニ伸ビテ全果ヲ包ム様ニナツタモノカ何レカデアラウト思ハレル。材料ガ豊富ナラバ何レカヲ推定シ得ル



第 4 圖 鳳眼菩提珠 (原圖)。  
a. 珠面ニ現ハレタル種々ノ紋理 (略實物大)  
b. 珠ノ横斷面  $\times \frac{2}{3}$ 。

内部ハ 1 室ニシテ種皮ノ卷カレタルヲ示ス。室ノ下側ニ維管束ノ跡ヲシキ 4 點ヲ認ム。又横線ニテ圍マレタ部分ハ濃褐色ノ線ニテ劃サレタル濃色ノ部ヲ示ス。縦ノ斜線ノ部分ハ絲孔ナリ。

Fig. 4. Different marks and transverse section of "Hogonbodaiju" (ca.  $\frac{2}{3}$ ) (original). a, Different shapes and marks on beads. b, transverse section of a bead (one called) the place of oblic lines shows the trace of thread hall.



モノト察セラレルガ何分ニモ材料ニ乏シク且容易ニ入手シ難イノデアルカラ剖檢的ニ之ヲ實證スルコトハ困難デアル。幸ニ清水師ノ好意ニヨリ餘剩ノ珠1箇ヲ貰ヒ受ケテ切斷シテ見ルト第4圖bニ示ス如ク内部ハ1室ニナツテ居ルガ、注意シテ見ルト花金剛珠ノ1室(第2圖b)ノ場合ト等シク其側方ニハ4箇ノ維管束ノ跡ヲシキ小點ヲ存シテ、此部分ハ元來2室ノ中央隔壁ニナル可キ部位デナカツカトノ疑問ヲ挾ムモノデアル。此點ニ關シテ材料拂底ノ今日之以上ノ確證ヲ握ルコトガ出來ナイ。而シテ此種核ノ室數ガ元來2室性ノモノデアルトスレバ、前記ノ維管束跡ノ判然セルモノ、數ガ4點ナルコト、考ヘ合セテ元々2枚ノ心皮ノ合着ニヨツテ成立シタト解スルノガ穩當デナイカト察セラレル。

尙此數珠ノ中ニハ上記ノ如ク磨キオロシタ珠デナク、其果皮付(註、果皮カ或ハ粗面ノ儘ノ種皮カ判明セズ)ノ儘ニテ磨キアゲテ雅致アル數珠ニ作り上ゲタルモノガアルト云フコトデアル。不幸ニシテ筆者ハ未ダ之ヲ實見スル機會ガ無イノデ其狀態ヲ詳記スルコトノ出來ナイヲ遺憾トスル。因ミニ前掲ノ山本氏ノ百品考ニ記ス最後ノ項「又大サ龍眼ノ如キモノアリ、外面ヲ磨キオロシテ滑ラカナラシメ花紋ナク光アリテ褐光細文アルヲ天竺菩提珠ト云フ、念珠ノ上品トス」。ト記スモノハ其大サガ略近イ點ヤ其他カラ判斷シテ此處ニ云フ鳳眼菩提珠デナイカト云フ様ナ氣ガスル。

### 3. 龍眼菩提珠

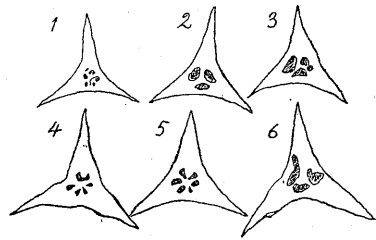
龍眼菩提珠ト稱セラレルモノハ前者ニ似テ珠ハ稍、小サク、直徑13mm内外、外面ハ殆ンド滑ラカニシテ前者ノ如ク點又ハ線狀ヨリナル凹處ハ殆ンド認メラレナイガ、所々ニ特ニ果實ノ頂端ニ相當スル部分ニハ殆ンド放射狀ニ近イ不規則ナル暗黒色ノ線ガ現ハレ、或ハ此線ハ個體ニヨツテハ明ラカニ3枚ノ心皮ノ縫合線デアルコトヲ推定セシムルニ足ルモノガアル。質ハ前者ヨリモ一層緻密ナル骨質デ堅ク、色ハ初メ淡褐色デアルガ使用スルニツレテ暗褐色ニ變ジテ光澤ヲ増シテ來ル。ソノ龍眼菩提珠ト稱ヘラレル所以ハ、前者ノ場合ト同ジクソノ基部ニ相當スル部分ニ三出星狀ノ斑紋ガ明ラカニ現出シテ居ルノニ基クモノデ、而モソノ中央ノ部分ニハ眼ノ心ニ相當スル部分ガ第5圖ニ示ス様ニ不規則ナ小凹點トナツテ現レ、之レニヨツテ所謂“龍眼ヲナスト”云フノデアル。此三星狀ノ部分ハ即チ3枚ノ心皮ノ合着ヲ示スモノト察セラレル。ソノ中心ノ不規則ナ凹點ハ前者ニ於ケルト同様ニ果柄ト連絡セル維管束ノ跡デ略、6箇ノ維管束ヲ示ス(第5圖5)様デアルガ、之等ハ隣接スルモノ同

志ガ合着シタリ、或ハ磨キ上ゲ=際シ磨滅シタリシテ頗ル不規則ナル凹點ヲ形成スルコト第 5 圖=見ル通りデアル。

各三角形ノ頂點ハ頗ル不明瞭=終ル場合ガ多イカラソノ長サヲ示スコトハ困難デアルガ、ソノ接合ノ中心點迄ノ長サハ略 10 mm 内外デアル。又各三角形モ比較的短大ナルモノ、細長ナルモノ、或ハソノ周邊殆ンド直線=近キモノ、或ハ著シク孤狀ヲナスモノ、若シクハ波狀ヲナスモノ等可ナリ變化ガ多イ。

#### 4. 星月菩提珠

本品ハ大小種々アツテ一定シナイガ、筆者ノ檢シタモノハ直径 13 mm カラ 13.5 mm ヲ算スル=連ト他ハ直径 8 mm 内外ノ小珠ヲ有スル=連トデアルガ、清水師ノ談ニヨレバ更ニ小形ノ即直径 6 mm 内外位ノモノガ存在スルト云フコトデアル。此珠モ殆ンド骨質=近イ堅イ組織ヲナスコトハ前 2 者ノ如クデアルガ、新鮮ナモノハ殆ンドコルク位ノ淡褐色ヲナシ、使用スルニツレテ硝子破碎面ノ如キ光澤ヲ放ツニ至ルモノデアル。ソノ星月ト呼バル、所以ハ本品ノ一ヶ所=直径 1.5 mm 内外ノ正圓孔ガアリ、ソノ周圍ニハ一面=小黑點ガ散在スルコト恰モ月ト星トノ狀況ヲ呈スルト云フニ基クモノデアル。圓孔ノ深サハ約 3 mm 程度デアツテ、ソノ大サハ珠ノ大小ニ拘ラズ殆ンド一定シテ居ル。此小孔ハ前 2 者トハ其位置ヲ異ニシ恐ラク果實ノ頂端乃至ハ其ノ附近ニ相當スルモノデナイカト思ハレル、ト云フノハ各個體ヲ檢シテ居ル内ニ孔内ニ黒變セル小塊デ充滿サレタモノガアル。コレハ生體ノ時ニハ柔軟ナリシト思ハレルモノデアリ、且他ノ個體ニハ圓孔ノ半分ヲ被フテ居ルノヲ見出シタノデ、之ヲヨク檢スルト圓孔トナル可キ部分ハ判然タル模様ガ付イテ居ルノデビンセツトデツツイテ見タ結果單ニ薄膜ニ過ギナイコトガ解ツタ、即此圓孔ハ種々ノ發芽孔ニ相當スル部分デ、此中ニ殘存スル黑色ノ小塊ハ胚軸ノ乾固セルモノニ外ナラナイノデアル。此小孔ノ周圍 2-3 mm ノ間ハ平滑デアルガ、其他ノ場處ハ全面ニ互ツテ針先デ突イタ程ノ黒褐色ノ小孔ガ散在シ、其深サト



第 5 圖 龍眼菩提珠ノ種々ノ斑紋ヲ示ス(原圖) ca. × 1。

5 ハ維管束跡ノ略正常形ナルモノニシテ他ハ種々ノ度合ニ離合セルモノナリ。

Fig. 5. Different shapes and marks of "Ryugan-bodaiju" (ca. × 1) (original).

5 is seems to be the normal type of the trace of vascular bundles, in the others they are separate or unite in various grade.

密度トハ個體ニヨリテ大差ガアリ、淺キハ單ニ痕跡ニ止リ、深キハ 1mm 程度デアリ、又大サモ針先位ノモノ、針ノ中央部位ノモノ或ハ之等ガ 2、3 箇所合體シタト思ハレル稍橢圓形乃至短線形ヲナスモノ等ガ見ラレル。勿論數珠ニスル爲メニ外面ノ幾分カハ削リ去ラレタコトハ考ヘラレルガ、前記ノ如ク圓孔ノ被膜ノ殘存スル所ヨリ推定スレバ餘リ厚ク削リ去ラレテ居ナイコトガ推定サレル。

上記ノ如ク本品ハソノ小圓孔ヲ月トシ、ソノ周圍一面ノ小點ヲ星ニ見立テ、星月菩提珠ト呼バル、モノデ、ソノ状態ヨリスレバ誠ニ合理的ナ名稱デアル。

以上 3 種 (鳳眼、龍眼及星月) ノ各菩提珠ノ原樹ニ就テ、筆者ハ未ダソノ科屬ニ就テサヘ何等ノ手懸リガナク、茲ニ之ヲ報告スルコトノ出來ヌコトヲ深ク遺憾ニ思フト共ニ之等ノ品ノ製出サレル支那及滿洲等ニ在住セラハ、同好ノ士ガ本文ヲ手懸リトシテソノ原樹ヲ探索シ之ヲ闡明セラル、機縁トナルナラバ筆者ノ望之ニ過ギタルハ無シト申述ベテ置キ度イ。

因ミニ此等 3 種ノ内星月菩提珠ハ日本ニモ可ナリ多數ニ這入ツテ居ルト云フコトデアル。即チ金剛珠ハ餘リニアリフレタモノデアルノデ、少シ身廻ノ良イ御坊サン方ノ内ニハモツト上等ノ數珠ヲト云フノデ星月菩提珠ヲ求メラレル向ガシバシバアルト云フコトデアル。次ニ鳳眼菩提珠ハ星月程デナイガ多少日本ヘモ傳ツテ居ルソウデアルガ、龍眼ニ至ツテハ頗ル稀少デ假令我國ヘ傳ツテ居ルトシテモ極メテ少數デ指折り數ヘル程度ダラウフト云フコトデアル。又此物ハ支那デモ稀ニシカ見當ラヌト云フ。從ツテソノ價モ龍眼菩提珠ガ最も高ク一連 (108 箇) ノ價 70-80 圓位デ、鳳眼菩提珠ノ方ハ同ジク 60-70 圓程度、星月菩提珠ノ方ハ大珠ノ上品 30-40 圓見當デ珠ノ大小及品質ノ上下ニヨツテ夫々相場ヲ異ニスル (以上日本ニ於ケル相場)。

清水師ノ談ニヨレバ上記ノ外單ニ菩提珠ト稱ヘラレルモノガアツテ、此物ハ殆ンド胡桃大位ノ大サヲ有シ且核ノ外面ハ殆ンド平滑ニ近イ無紋デ品物モ極メテ少ク、日本全國ヲ通ジテ僅カニ九連ガ知ラレテ居ルニ過ギヌト云フコトデアルガ、筆者ハ未ダ實見スル機會ガナイカラ之以上詳報スルコトガ出來ナイ。

## 5. 其他ノ數珠

數珠ノ材料トシテハ特ニ或種ノ品ニ限定サレテ居ル譯デナイカラ、夫ガ數珠



第 6 圖 星月菩提珠ノ月ト星ノ模様ヲ示ス (原圖)

ca.  $\times \frac{2}{3}$ .

Fig. 6.

Different marks of "Seigetsu-bodaiju" ca.  $\times \frac{2}{3}$  (original).

トシテノ目的ニ適ヒ且ソノ製作ニ適シテ居ルモノナラバ何品ニ拘ハラズ使用シ得ル譯デアル。從ツテ巷間種々ノ材料デ造ラレク數珠ヲ散見スル。今筆者ガ實見シタ材料トスル植物 2、3 ノモノヲ略記シテ見ルト第一ノ品ハ黃楊材 (*Buxus* sp.) ヲ以テシタモノデ、各珠ハ之ヲ人間ノ頭骨ニ形採ツテ彫刻シタモノデアツテ、長 15 mm、幅 12 mm 程度、之ヲ縦ニ連結シタモノデアアルガ、使用ニツレテ褐色ノ光ヲ放ツニ至リ中々雅致ノアル品デアアル。只嗜好トシテ一般的ニ向クカ否カハ疑問デアアル。

次ノ品ハ杏 (*Prunus armeniaca* L. var. *Ansu* MAXIM.), ヲ材料ニシタモノデ、ソノ種核ヲ用ヒテ之ニ羅漢ノ坐像ヲ横彫ニシ、之ヲ横ニ連結シタモノデアアル。各箇ノ像ハ餘リ上刻ト稱スルコトハ出來ナイカモ知レヌガ兎ニ角一風變ツタ點ニ於テ甚ダ興味ノ存スル品デアアル。像ノ大サハ堅横共ニ、18 mm 程度デアアル。

第三ノ品ハ橄欖 (*Canarium album* RAEUSCH.) ノ種核ヲ材料ニシタモノデアアル、本品ハ支那デ製作サレタモノデ、紡錘形橄欖ノ種核ノ兩端ヲ去リ、中央ノ大キナ部分ノミヲ用ヒテ兩端ヲ稍小ク、中央ヲ少シク即稍、樽形ニ造リ上ゲタモノデ、周圍ニハ花鳥、人物、鹿等ノ彫刻ヲ施シ、誠ニ見事ナモノデアアル。ソノ質ハ金剛子等ニ優ル硬質ノモノデアアルカラ、永年使用シタモノハ恰モ硝子破碎面ノ如ク滑澤デアリ、淡褐色カラ次第ニ濃色トナリ、永ク使用サレタモノハ暗褐色ニ變化スル。只本品ノ缺點トシテハソノ孔ガ種核ノ性質上往々必要以上ニ大キクナリ且形モ一定シナイコトデアアルガ實用上ニハ何等差支ヘルモノデハナイ。筆者ノ實見シタモノハ高サ 13 mm 弱、中央直徑 13 mm 強程度ノ品デ珠ハ勿論縦ニ連結スル様ニ出來タモノデアツタガ、本品ノ中ニハソノ珠ガ更ニ大形ノモノモアルト云フコトデアアル。

以上ノ外當地方ニアル材料デ其儘或ハ彫刻ヲ施シテ數珠ニ造リ得ラレルト思ハレル品ハしろつぶ (*Caesalpinia cristata* L.) 及ビくいのき (*Aleurites moluccana* WILLD.) ノ種實デアアル。

前者ハ熱帯各地カラ臺灣ノ恒春半島及高雄邊ノ海岸地帯迄分布スルじ、けついばら屬ノ蔓莖植物デ其種實ハ球形乃至多少偏球形デ、淡イ鉛色ヲ帯ビ、種皮ハ頗ル堅硬、之ノ二ツヲ互ニ打敲ク時ハ小石ノ如キ音ガスル。大サハ直徑 16-7 mm カラ 20 mm ヲ超スモノ等變化ガアル。此物ノ大形ノモノハ不適當デアアルガ小形ノ正球形ノモノヲ選擇スレバ立派ナ數珠ニ造リ得ルト思ハレル。只本品ノ難點ハ長ク乾固シタモノハ内部ノ仁ガ種皮ト離レテ居ルノデ穴ヲアケ絲ヲ通ス時ニ稍、困難ヲ感ズルデアロウト考ヘル。

後者ハ馬來ニ於ケルブア、カラス Buah Keras (堅果ノ意) ト呼バル、我あぶらざり屬ノ植物デアツテ、ククイトハ蠟燭ヲ意味スル大太平洋諸島ノ名稱デ、其仁ハ油脂ニ富ミ、往時同地ノ土人等ハ之ニ火ヲ點ジテ燈火ノ用ニ供シタコトカラ起ツタ名稱デアル。本種ハ太平洋諸島一帯カラ比律賓、ポリネシアヲ通ジ南洋ニ廣ク分布スル小喬木デ、其種實ハ馬來名ノ示ス如ク頗ル堅ク打割リ難イ、種殻ハ黑褐色ニシテ厚ク、布哇其他ノ太平洋諸島デハソノ小形ノ種實ニ種々ノ彫刻ヲ施シテ婦人ノ裝飾品等トシテ販賣シテ居ルト云ハレ、小形ノモノ程却テ貴バレルト云フコトデアル。

種實ハソノ基部ガ幾分扁平トナル不規則ナ球形デ大サハ個體ニヨツテ頗ル變化ニ富ミ、普通ハ直徑 16-7 mm カラ 22-3 mm 程度デアルガ、往々夫ヨリ遙カニ小形ノモノ、存スルコトハ本品ノ應用方面ニ良イ機會ヲ與ヘルモノデアル。上記ノ如ク形ハ稍、不整デアルガ種殻ガ厚イ爲メニ之ヲスリ磨キテ形ヲ整ヘ或ハ之ニ彫刻ヲ施スコトモ自在デアルカラ、ソノ小形品ノミヲ選別シ、特ニ 1 種ノ彫刻ヲ施スナラバ恰好ノ數珠ニ造リ得ルダラウト思ハレル。

## 要 約

1. 我國ニ於テ金剛珠又ハ金剛菩提珠ト呼バル、數珠ハじゅずぼだいじゅ (*Elaeocarpus ganitrus* Roxb.) ノ種核ナルコトヲ述べ、其原樹ニ就キ概略ヲ説明シ、且數珠ハ佛教徒ノミデナク、基教、印度教及回教徒等ニ於テモ用ヒラルルガソノ使用ノ意義ト一連ノ數珠數トハ夫々異ルコトヲ述ベタ。

2. 次ニ我國ノ古記録ニ記ス花金剛珠ナルモノハ恐ラク現今照南島地方デ小形じゅずぼだいじゅノ實トシテ販賣サレルモノト同一物ナラント推定シ、ソノ原樹ハ未ダ確定的デハナイガソノ種實ノ形態、大サ、特徴及記載等カラ判斷シテ略 *Elaeocarpus petiolatus* WALL. 若シクハソノ近縁種ナル可キコトヲ推定シタ。

3. 筆者ノひだなしぼだいじゅ (*Elaeocarpus stipularis* Bl.) ト稱ヘルモノハ、ソノ種核ガ略じゅずぼだいじゅト同大デ、ソノ外面ハ彼ノ如ク顆粒狀ノ凹凸紋ヲナスコトナク、從ツテ手觸リヨロシク數珠トシテ充分利用シ得ルコトヲ指摘シタ。

4. 印度教徒或ハチツテ種族間ニ首輪ノ裝飾(或ハ寧ロ護符)トシテ用ヒラルル長徑 35-40 mm、短徑 25-30 mm ニモ達スル稍、橢圓形ノ種核ハ *Elaeocarpus tuberculatus* Roxb. ノ實カラ得ラル、モノデ彼等仲間デハ一箇 10 弗カラ 15 弗モスル高價ノモノデアル。

5. 次=鳳眼菩提珠、龍眼菩提珠及星月菩提珠ト呼バル、3種ノ數珠=就テ夫々ソノ特徴ヲ記シタガ、此等3種ノ原樹=就テハ何等知ル所ガナイノデ既知ノ方若シ之ハ之等ノ產地ト思ハレル支那大陸方面ノ讀者ノ御研究ヲ希望シテ置イタ。

6. 其他數珠ノ既成品トシテハ黃楊材 (*Buxus* sp.). 杏 (*Prunus armeniaca* L. var. *Ansu* MAXIM.) 及ビ橄欖 (*Canarium album* RAEUSCH.) ノ種核等=夫々頭骨、羅漢像及花鳥其他ノ動物、人物等ノ彫刻ヲ施シタルモノアルコトヲ略記シタ。

7. 昭南島邊=現存スル材料デ數珠=適スルト思ハレルモノハしろつぶ (*Caesalpinia cristata* L.) トくくいのき (*Aleurites moluccana* WILLD.) ノ種實デアツテ、之等ハ共ニ小粒ノモノヲ選擇スレバ其儘或ハ彫刻シテ恰好ノ數珠=造リ得可キコトヲ述ベタ。

終リニ本文ヲ草スルニ當リ鳳眼、龍眼及星月等各種未知ノ菩提珠=就テ御教示ヲ賜ハリ、又黃楊材、杏及橄欖等ノ數珠=ツキテモ實物ヲ供覽セシメラレ若シクハ被檢品ヲ貸與或ハ提供セラレタル前記清水師ノ御好意ヲ深ク感謝イタシマス。

### 参 考 文 獻

- 1) HOOKER, J. D.: Flora of British India, I (1875).
- 2) WIGHT, R.: Icones Plantarum Indiae Orientalis, I (1840).
- 3) BRANDIS, D.: Indian trees (1921).
- 4) RIDLEY, H. N.: Flora of Malay Peninsula, I (1922).
- 5) BURKILL, I. H.: Economic Products of Malay Peninsula (1935).
- 6) 松崎直枝: 盆栽 第13卷第10號 (昭和8年10月)。